

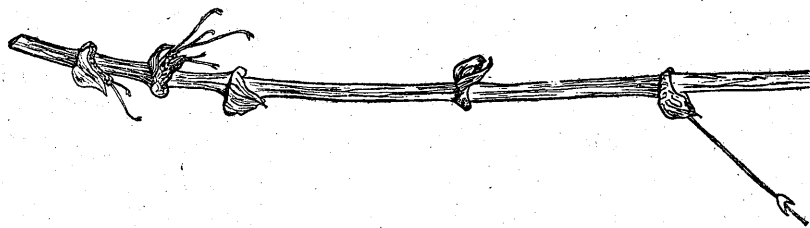
は卵状なれば比ならんか、塊茎や、此図に似ず。 サバノヲ *I. dicarpon* Miq. は作州那岐山にて雪吹氏の採集せしこと（植物学雑誌）1.81 号に見ゆれば是サバノヲの方が、山城國醜湖山にも産す（原文かたかな）。

これによつて明かなように牧野先生に標本を送つて考定を乞うたが、果実の標本であつたためサバノヲと疑問を残されており、氏も諸書の図と比較して決定に苦んだあとが見られる。しかし画かれた図と、船越山には本品以外に *Isopyrum* を産しないことによつて氏の採品がキバナサバノヲであつたことが明かである。

筆者は前記雜報中、本品の分布について播磨実栗郡船越山、神野村及び但馬朝來郡山口村に産することにより、東部中國山脈に分布することを予想しておいたが、氏はこの時の旅行に於て美作行着山で同一品を得ており、又那岐山のサバノヲも恐らく本種と思われる。そうすると本種の産地はさらに西へ延びることが予想される。

○川芎のふえかた（久内清孝）—K. HISAUCHI, The propagation of "Senkyū."

漢方のくすりとして名高いセンキウは、各地でよく栽培されて居るが、一般にはあまり知られていない。筆者の如きも其生態についてはよく知らない。もちろん普通の本にはかいてない。寺島良安の倭漢三歳圖會には「宿根生苗分枝横埋之別節々生根」と本草綱目の文を、そのまま轉録しているし、本草圖譜には簡単な記事もあるが、生態をよく知らぬため、その意味がよく汲みとれなかつた。ところで、最近佐々木一郎氏が富士山の栽培地で實見された材料を見て、はじめてこれが解つた、というのは、この多年草の地上莖は冬に枯乾するが、葉柄の殘存部に包まれた節は、ソロバン玉状にふくれて多肉になり、これが發芽し、節間部は枯れて細くなり、節のところ丈が残る。だから枝や莖



を地に横にしておけば、各節から芽を出してふえる。栽培者はこの方法で増産して居るのである。つまり節々生根する性質を利用しているのである。立つたまゝ冬枯れしたもので、上の方は枯れるようだが、地表に近い節は、たいてい發芽する。かゝる性質があるので、果實が成熟しないし、またその必要もないのであろう。學名については矢部吉禎氏は繖形科總説（1902）で、これが記相文をかき、*Conioselinum* sp. として處理されたが、のち牧野先生はこの矢部氏の記相をもとゝして、植物學雑誌 22 卷（1908）で、

Cnidium officinale Makino の名を與へられた。しかしこの名は其前年草木圖説増訂のとき既に公表されている。それから Em. Perrot et Paul Hurrier の著 *Matière Médicale et Pharmacopée Sino-Annamites* (1907) では *Conioselinum univittatum* Turcz. 即ミヤマセンキウの名をこのものに使つて居る。こゝで明かになつことは *Conioselinum* と *Cnidium* の二説あることである、それから中國で古來この名でよぶものは決して特定の一種でないことは、本草綱目其他で明白であるから、こんな點でも川芎を解明する必要がある様に思はれることをついでに附記する。

○學名訂正四件 (北川政夫)——M. KITAGAWA, Nomenclatorial corrections.

私が以前發表した滿洲產新植物の内 コウアンフシグロ、コマメワウギ及シロキジムシロの3種は先行名が既にあつたので茲に訂正する次第である。即ち次の如くである。

1) **Melandrium brachypetalum** Fenzl in Ledebour, Fl. Ross. 1: 326 (1842); Tolmatshev in Komarov, Fl. URSS. 6: 722, t. 45 f. 7 (1936).

Lychnis brachypetala Hornemann, Hort. Haf. Suppl. 51 (1819).

Melandrium irikutense Kitagawa in Bot. Mag. Tokyo 48: 95 (1934): Lineam. Fl. Manch. 200 (1939) — syn. nov.

Nom. Jap. Kōan-fusiguro.

Area Geogr. Siberia, Asia media, Mongolia, Manshuria & Kamtschatka.

2) **Astragalus olopterus** De Candolle, Prodr. 2: 284 (1825); Ledebour, Fl. Ross. 1: 617 (in nota) (1843).

Astragalus Satoi Kitagawa in Bot. Mag. Tokyo 48: 99, f. 12 (1934): Lineam. Fl. Manch. 281 (1939). — syn. nov.

Nom. Jap. Kogome-wōgi.

Area Geogr. Mongolia, Dahuria & Manshuria.

3) **Potentilla inquinans** Turczaninow in Bull. Soc. Nat. Mosc. 16: 624 (1843); Juzepczuk in Komarov, Fl. URSS. 10: 95, t. 9, f. 1 (1941).

Potentilla Saviczii Schischkin & Komarov in Not. Syst. ex Herb. Hort. Bot. Princ. URSS 6: 11 (1926).

Potentilla Okuboi Kitagawa in Rep. Int. Sci. Res. Manch. 1: 258, f. 1 b, t. 1 f. 1 (1937); Lineam. Fl. Manch. 266 (1939) — syn. nov.

Nom. Jap. Siro-kijimusiro.

Area Geogr. Siberia orient., Ochotk., Ussuri & Manshuria.

尙今一つ訂正すべきものは私が「第一次滿蒙學術調査研究要報告」第4部第4編に於て、イヌゲンゲ屬の名を改正したが、其屬名の綴りが文法的に誤つてゐたので直した。